

医療福祉生協連主催「2011年度口と健康を考えるつどい」報告集
～2012年3月3・4日 東京・渋谷に23生協・98名が参加～

医療福祉生協連(東京都新宿区、高橋泰行会長理事)主催の「口と健康を考えるつどい」が、3月3日、4日、コーププラザ(東京都渋谷区)にて、23医療福祉生協の組合員・歯科医師・歯科衛生士・技工士・看護師・事務職員など98名(含む組合員22名・歯科G委員・事務局)の参加で開催されました。

1日目は、基調報告・記念講演・3つの指定報告・夕食交流会(ゲーム・クイズ・表彰など)・ポスターコンクール(投票)などを行ったほか、歯の健康関連の展示が行われました。2日目は、4つのテーマ別分科会を行いました。



▲熱心に講演や報告を聞く参加者の様子▲

<「2011年度口と健康を考えるつどい」の概要>

【第一日目】

■基調報告:中澤桂一郎医療福祉生協連理事・歯科グループ委員長・歯科医師(要点のみ)

※からだの健康は口の健康から。口の健康問題を抜きに全身の健康は語れない。

口の健康は歯ブラシ1本ではじめることができる。

■記念講演:「健康は健口～口と健康の意外な関係」(要点のみ)

神戸常磐大学短期大学部 足立了平教授

※噛むことは脳を働かせ老化を抑制する。「かめる口づくり」のために歯を残そう。歯の喪失はアルツハイマー病の危険因子の一つという研究がある。肺炎は怖い病気(高齢者の死因の第1位)だが、口腔ケアで肺炎を防ぐことができる。災害時の歯科の役割は歯型で身元確認・被災者の健康確保・歯科医療の確保・肺炎の予防。



▲基調報告:中澤桂一郎歯科グループ委員長

▲記念講演:足立了平教授

■指定報告:生協歯科ひろしま新築移転～組合員と職員が協同して作ったけんこうまつり
(要点)

広島中央保健生協 藤行智賀子さん・田中正江さん

※生協歯科ひろしまの2012年開設に向けて「生協歯科ひろしま新築移転300人応援団」を結成。

ご当地アイドルを呼んだまつりに3000人超が参加し、歯科の宣伝を行った。

■指定報告:「嚥下障害/口と全身疾患について」(要点)

庄内医療生協 鶴岡リハビリテーション病院 福村直毅医師

※肺炎の予防は「嚥下障害治療」と「口腔治療」の2つ。鶴岡地域では医科・歯科連携で高齢者の肺炎が激減した。地域全体で学習し取り組むことが重要。医科・歯科連携を実現するためには壁を意識しないことこそが重要。患者がいるところがすべからく治療の場。



▲指定報告:広島中央保健生協(藤行・田中)

▲指定報告:庄内医療生協・福村医師

■「認知症サポータ養成講座」:手塚美恵子歯科グループ委員・新潟医療生協 (要点)

※老いは平等にやってくる。認知症は物忘れではなく「病気」。認知症を正しく理解しよう。



▲講師:手塚歯科 G 委員



▲受講しながら体操する参加者

■夕食交流会の風景

チーム対抗戦「歯科用語によるビンゴゲーム」「医療福祉生協ウルトラ大クイズ」、交流賞(一番多く名刺を交換した人)、サプライズ賞(誕生日の人・最高齢参加者など)、ポスターコンクールの表彰(投票による)などを行いました。

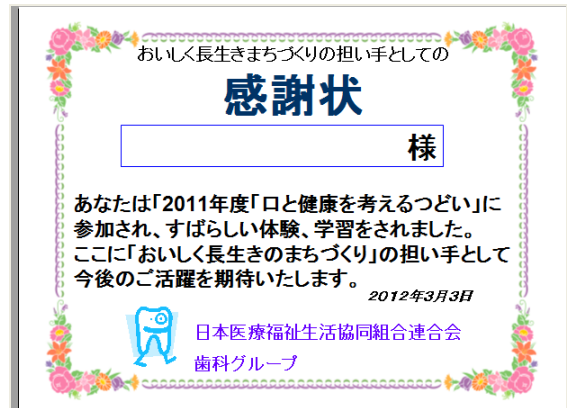


▲夕食交流会の様子



▲乾杯(医療生協さいたまの丸山久美子理事)





▲22名の組合員参加者に感謝状を贈呈▲



▲交流賞(利根保健・金井さん) ▲誕生日で賞(利根保健生協・関さん)

【第二日目】

■テーマ別分科会

○第1分科会:テーマ「歯科治療の現実」

※経済格差が歯の健康格差に影響している。歯科医療現場では治療を中断する人が少なからず存在する。国民健康保険料を払うことができず、歯科医療にアクセスできないケースもある。無料低額診療事業を広げることができれば、このような方々にアクセスを保障することにつながる。



○第2分科会「認知症予防と口の健康」

報告:「地域での認知症予防～インストラクターがすすめる脳いきいき班会のひろがり」

神戸医療生協 當山恵子健康づくり委員

※歯をしっかりと残して認知症を予防しよう。歯でしっかりと噛むことで、脳の神経細胞に良い刺激を与えよう。

報告:「おいしく食べる～5年後も筋力維持・マイヘルスプログラムの取り組み」

医療生協さいたま 朝霞和光支部 木村史子さん

※マイヘルスプログラムー東洋大学との共同の取り組みの報告。

報告:「おいしく食べる～入院治療で歯科との連携 栄養士の立場から」

医療生協さいたま 山下ひとみ管理栄養士

※ケア時間に制約がある中での入院治療における栄養士と歯科との連携を報告。



▲ 當山恵子さん



▲ 木村史子さん



▲ 山下ひとみさん

実践:「みんなでやってみよう！認知症予防レクリエーション」



○第3分科会「医科歯科介護連携～口腔ケア～」

「医科歯科連携の概況～抜歯クリティカルパス作成を通じて～」

庄内医療生協・鶴岡リハビリテーション病院 福村直毅医師

※抜歯クリティカルパスの作成は以下の流れ。第1ステップ:抜歯可否判断表、第2ステップ:抜歯工程表⇒医科・歯科が同じ用紙に記入⇒歯科医師・医科医師・看護師が共同作成⇒運用。パス作成のより責任と工程の明確化を実現。抜歯の可否判断は責任を伴うため医科・歯科共にリスクを確認することが大切。



報告(1):「歯科衛生士医療介護との連携～」

はるな生協 村川典子歯科衛生士

※高崎中央病院と通所介護施設群における歯科衛生士の業務について報告。



▲報告する村川典子歯科衛生士



▲質問する参加者

報告(2):「歯科衛生士を含めた病院NST(摂食機能)回診の取り組み」

新潟医療生協 本田俊一言語聴覚士

※目的は①摂食・嚥下障害患者に対してより安全に経口摂取ができるように援助、②食べる楽しみの充足。活動内容は、嚥下造影検査の導入・嚥下食の改良・啓蒙活動。成果は歯科と連携して回診を行うことで、口腔ケアに対する意識が病院全体が高まった・より専門的な口腔ケアを行う体制の強化・摂食機能療法実施の件数増で診療報酬の増収に繋がった。



▲報告する本田俊一言語聴覚士



▲質問する参加者

報告(3):「食のリハビリテーション外来」

福島中央市民医療生協 原純一歯科医師(上松川診療所)

※外来の中身:摂食・嚥下障害の治療で誤嚥性肺炎を予防し、窒息を未然に防ぎ、より安全にいしく口から食べるために専門的な評価と指導。実施方法:診療所外来と訪問診療で内視鏡により、実際に物を飲み込む際の画像をテレビに映し、一人一人にあった安全な食べ方の指導する。診療の流れ①診察:全身状況・食事の現況・スクリーニング検査⇒②検査:嚥下内視鏡検査や造影検査⇒③評価/診断/指導:検査結果をもとに適切な栄養法の提案と説明と指導



▲質問する参加者



▲報告・応答する原純一歯科医師

○第4分科会「歯磨きセミプロの活動」

報告(1):セミプロ経験を介護で活かして」北医療生協 山本明美 セミプロ世話役

※歯みがきセミプロの経験を活かし、グループホーム入居者の口の健康を守る活動を報告。

報告(2):「歯科のない医療生協で取り組む「歯磨きサポーター活動」

長野医療生協 中澤瑠美子 歯磨きサポーター

※歯科の事業所がない医療福祉生協での歯みがきセミプロの活動を報告。長野県歯科医師会と連携した活動を報告。

実践・体験コーナー (1)染め出し歯磨きの実践 (2)班会メニューの実践



▲第4分科会の様子▲

■各分科会の報告:第1分科会～第4分科会



▲第1分科会 前田謙二歯科グループ委員)



▲第2分科会(浦川恵子歯科グループ委員)



▲第3分科会(後藤由紀子歯科グループ委員)



▲第4分科会(角島宏子歯科グループ委員)

■つどいのまとめ(来年度に向けて):滝本博医療福祉生協連歯科グループ委員

※2012 年度は口と健康を考えるつどいを発展させて「健康づくり活動交流集会 in 神戸」との合同企画(2013 年 2 月 23-24 日開催予定)になる。歯磨きサポーターの活動状況や口と健康にかかわるとりくみどの調査をすすめます。



▲「まとめ」の報告をする滝本博歯科G委員



「まとめ」を聞く参加者たち

●ポスターコンクールと投票する参加者たち



▲ポスターコンクール:投票する参加者たち▲

●ポスターコンクール投票結果と表彰:第1位~第3位 第一位は尼崎医療生協歯科



▲第1位 尼崎医療生協歯科



▲第2位 医療生協さいたま・朝霞和光支部



▲第3位 香川医療生協平和歯科

＜問い合わせ先＞

医療福祉生協連 本部 会員支援部 電話:03-4334-1580